

兵庫県明石市のノリ養殖業者が、アワビを水槽で育てる陸上養殖に成功し、まもなく出荷を始める。餌は色落ちなどで商品価値がなくなったノリで、全国でも珍しい試み。県内のノリ生産者は、色落ち被害や産地間競争の激化による単価の下落などに苦しんでいるが、廃棄せざるを得なかったノリを使ったアワビ養殖は、新たな収入源として、注目を集めそうだ。

林崎漁協に加盟する「中谷水産」。明石市を中心にした

色落ちノリを餌、アワビ養殖

兵庫県内の瀬戸内海沿岸は、ノリの養殖が盛んだが、近年は、有害プランクトンの影響などで養殖ノリの色落ち被害が深刻。他産地との競争も激しく、県漁連によると、かつては全国一だった兵庫県のノリ生産量は、佐賀県に抜かれ、二〇〇三年から二位に。

昨シーズンに、深刻なノリの色落ち被害に遭った同社は、「商品にならないノリを有効活用できないか」と検討。コンブやワカメを食べるアワビの餌にすることを思いついた。

アワビの稚貝の生産・飼料の研究開発に取り組む愛媛県

の養殖業者へ技術指導を依頼。漁業権の確保が難しい海面養殖はあきらめ、台風や病気被害の少ない陸上養殖に着手することにした。

昨年十二月に約五万匹のアワビを五千匹購入。食用を前提に乾燥させたノリを与えたところ、半年で約六・五万の大さきまで育ち、五月中旬ごろには出荷できる見通しとなった。

生存率も99・98%で、ワカメやコンブを餌にした他の陸上養殖アワビの平均値の95%より高い。肉も分厚く、直径が同じサイズの養殖アワビより重さが一・二倍もある。